

第2回  
全国高校生  
社会イノベーション選手権  
大会終了報告書

2019年8月17日(土)・18日(日)



# 目次

●大会概要	.....	2-3
●活動報告	.....	4-5
●一次審査について	.....	6
●本大会について	.....	7-8
●大会結果	.....	9-10
●大会広報	.....	11
●審査員	.....	12-13
●決算	.....	14
●大会参加者の感想	.....	15-16
●来年度の開催に向けて	.....	17-18



# 大会概要

## イノチャンとは

全国高校生社会イノベーション選手権（以下イノチャンと表記）は、イノベーションを学び実践する場を高校生に提供することを目的として設立された大会です。2回目の開催となる今大会には全国98チームから応募があり、そのうち一次審査を通過した8チームが8月17日（土）・18日（日）に東京大学工学部1号館および東京大学情報学環・福武ホールで開催された本大会に出場しました。本大会では「地域住民が川に親しくなるアイデアを考える」をテーマに、主催側が設計したワークショップ（WS）に従ってアイデア発想に取り組みました。普段の授業では扱わない課題に悪戦苦闘する姿も見て取れましたが、どのチームも互いに協力して最終的には優劣のつけがたい素晴らしいアイデアを創出することができました。

---

## 大会日程

- 5月13日（月）9時00分 一次審査応募開始
- 6月10日（月）18時00分 一次審査応募締め切り
- 7月8日（月） 一次審査結果発表
- 8月17日（土） 本大会1日目
- 8月18日（日） 本大会2日目

# イノチャンコンセプト

「みなさんが社会を変える。イノチャンはその第一歩なのです。」

「どうして学校でこんなことを学んでいるのだろう。今の私たちにとって本当に必要な学びってなんだろう。」そう思ったことはありませんか。確かに、社会に出てから必要とされる知識はごくわずかで、今学んでいることの大半は役に立たないかもしれません。

今の社会はその方向を大きく変えようとしています。地球温暖化・少子高齢化などの環境・社会の変化から自動運転・AIなどの技術の発達まであらゆる動きがあり、既存の技術だけでは対応しきれない社会になっていくでしょう。そこで必要となるのが、「イノベーション」であり、私たちは特に社会問題の解決に向けたものを「社会イノベーション」と呼んでいます。

ではイノベーションとは何でしょうか。私たちはイノベーションを、既存の技術やアイデアの組み合わせの結果、新たな価値基準を生み出すことであると考えています。少し例を挙げてみましょう。数学の世界に最初0という数字はありませんでした。ものが「ある」ことは認識しやすいですが、「ない」ことは認識しづらいからです。盲点である「ない」の概念を0という数字で表したことはイノベーションと言えるでしょう。この発見は数学を飛躍的に発展させました。大きな発見だけではなく、イノベーションは身近にもあります。例えばシャンプーの容器には側面にきざみがついています。これは目をつぶった状態でもリンスとの区別を可能にするアイデアです。こういったちょっとした発想もイノベーションと呼べるでしょう。

イノベーションと聞くと、全く新しい発想が何もないところから生まれるような印象を受けますが、そうではありません。全く新しいと思われるアイデアでも、実は既存の知識や技術の組み合わせでできています。そして、その組み合わせこそがイノベーションの重要なところであり、その組み合わせを思いつくために今までの学びの片鱗が役に立つのです。つまり、高校生の皆さんでも今まで学んできたことを生かして新しいアイデアを作り出すことができるのです。ただ、この思考方法を習得するためには訓練が必要で、その第一歩としてイノチャンが誕生しました。

イノチャンとは社会イノベーションのアイデアとその創出プロセスを競う高校生を対象とした全国大会です。この大会で他のチームと競いながら仲間と協力してアイデアを創出することで、他者の考えを理解し自分の考え方の引き出しを多くすること、そして不可能だと思える問題に出会っても解決しうる可能性があることを期待しています。イノベーションに明確な答えは存在せず、無限の可能性を秘めています。あなたの持つ貴重な発想力を生かし、唯一無二のアイデアを創出してみましょう。未来ある高校生の皆さんの参加をお待ちしております。

---

## 主催・共催

当大会は東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻が主催し、一般社団法人日本社会イノベーションセンターおよび一般社団法人 i.school が共催しています。

# 活動報告

## 実行委員会について

当大会は全国高校生社会イノベーション選手権実行委員会によって運営されました。実行委員会は社会基盤学専攻に所属する学生有志を中心として27名（修士課程5名、学部課程22名）により構成されています。2017年の10月に実行委員会が設立され、大会開催に向けた運営が始動しました。プロジェクト全体を統括する「運営部門」、大会の経理を管理する「財務部門」、大会の課題やWSを設計する「レギュレーション部門」、高校やメディアへの広報を行う「広報部門」、審査員や協賛企業の方々との連絡をとりもつ「渉外部門」などの部門が設置され、各部門が互いに連携をとりながらイノチャンの運営を行いました。そして、社会基盤学専攻の教員や共催団体の関係者、その他大学内外様々な方からの助言や支援を得て、第2回大会を開催することができました。加えて第2回大会を実施するにあたり初の試みとして、前期教養課程（学部1、2年生）から委員の募集を行いました。

## 運営委員名簿

修士2年 彭思雄 浅野太郎 山口悠輝  
修士1年 青山美和 西條圭祐  
学部4年 奥田喬一 梅田昌季 大屋茉里奈 上林就 齋藤悠宇 須賀拓実  
高沼昂史 中村遼斗 野田智也 日比野仁志 黛風雅 安井あり紗  
横山大智（代表）  
学部3年 木津理稔 高松創 田端俊也 山原良太  
学部2年 尾崎正範 松山太郎  
学部1年 齊藤優織 増永裕太 松谷春花

## 各部門の活動内容について

### ○運営部門

運営部門では本大会の二日間の準備を行いました。具体的には、タイムスケジュールの作成、備品の準備や会場の設営、スタッフの仕事の分担等を行いました。本大会で生じうるあらゆる事態を想定し対策を行いつつ、参加していただく高校生や先生方はもちろんのこと、学生スタッフや審査員、観覧者を含むすべての人が、不安なく楽しんでいただけるように尽力いたしました。

### ○財務部門

財務部門では大会資金の管理を行いました。共催団体である（一社）日本社会イノベーションセンター（JSIC）に振り込まれる企業協賛金をJSICの経理の方と共同で管理し、大会予算の作成と実際にかかった経費の集計を行いました。そして大会を適切な予算の範囲内で実行できるよう努力しました。

## ○レギュレーション部門

レギュレーション部門では一次審査の課題作成と本大会のWS設計を行いました。全体的話し合いで決まった「水への親しみ」というテーマを基に、一次審査では「地域全体で行う新しい水のイベントを考える」という課題を提示しました。本大会のWSでは、高校生たちが好きと思うものと川の特徴を結び付けて、地域住民が川に親しくなるアイデアを創出する、というアナロジーの手法を用いたプロセスを考えました。

## ○広報部門

広報部門では高校への広報やホームページを通じての広報を行いました。高校広報では、参加高校の募集のほか、各高校に対する委員会の窓口としての役割を担いました。具体的には、高校への連絡・高校からの質問対応・電話やメールを通じた高校側へのPRを行いました。できるだけ多くの高校に参加してもらえらることと同時に、参加・非参加にかかわらずより多くの高校にイノチャンの良さを理解してもらえよう尽力いたしました。

また、本大会当日用のパンフレットやクリアファイルなどの各種制作物についても並行して行いました。

## ○渉外部門

渉外部門では企業協賛による大会資金調達を行いました。

本年は9つの企業様から協賛をいただき、各企業様へご挨拶に伺ったり、協賛決定後のやりとりや請求書の作成を行ったりしました。協賛をいただきました企業様にはここに厚く御礼申し上げます。

また、渉外部門では本大会での高校生のアイデアやWSのプロセス、プレゼンテーションを評価していただく審査員の方々への対応も行いました。審査員の方々を選定から始まり、メールや訪問を通しての依頼、そして当日の対応までを行いました。今大会では、テーマである「川への親しみ」およびイノチャンの主目的である「イノベーション教育」をキーワードとして、それぞれの分野の第一線で活躍されている専門家の方々をお招きしました。本報告書に後述いたしますように、藤井政人様、三橋さゆり様、山田辰美様、堀井秀之様、小松崎俊作様の5名に審査員としてご協力いただきました。厚く御礼申し上げます。

# 一次審査

## 一次審査テーマ

「地域全体で行う新しい水のイベントを考える」

---

## 一次審査詳細

### 応募期間

2019年5月13日（月）9時00分 ～ 2019年6月10日（月）18時00分

### 応募資格

○対象は高等学校・高等専門学校生徒とします。中等教育学校の場合は後期課程の生徒（4～6年生）を対象とします。

○1チームの構成人数は4～6名とします。

○同一都道府県内の場合、複数校による混成チームを認めますが、引率教員（代表）と各校責任教員、代表学生を必ず決めてください。なおこの場合、優勝または入賞した際には、トロフィーは引率教員の所属校に授与し、賞状はチーム構成員の所属校すべてに授与いたします。

○本大会進出が決定したチームは2名まで一次審査応募時の登録メンバーを変更することが可能です。またチーム構成人数が6名に満たない場合は、必要であれば最大6名になるまで不足分のメンバーの追加が認められます。

### 応募方法

以下の2点を添付したメールを大会メールアドレス（[innochan2019@gmail.com](mailto:innochan2019@gmail.com)）に送付

○エントリーシート

○一次審査テーマについて、

- (1) アイデアの説明およびアイデアを表現するイラスト
  - (2) アイデアに至るまでの議論のプロセス
- を所定の形式でまとめたもの

### 審査基準

○価値の発見力

○アイデアの発想プロセス

○アイデアの新規性・実現可能性

# 本大会

## 本大会の概要

本大会では「地域住民が川に親しくなるアイデアを考える」をテーマに、主催側が設計したWSに基づいて各チームがアイデア発想に取り組みました。本大会は8月17日（土）・18日（日）に東京大学工学部1号館および東京大学情報学環・福武ホールで開催され、1日目は事前課題として考えてきてもらった「身の回りにおける川の特徴」「自分たちが親しんでいるもの・ことの事例」を基にしたWSを、2日目は考えた川にまつわるイベントについてのスキット（寸劇）を交えた発表を行いました。（発表7分 - 質疑応答6分）



## 本大会参加チーム

チーム名	高校名	構成人数	
		男子	女子
Fishbones	愛光高等学校	0	6
Teenager	新潟県立柏崎翔洋中等教育学校	2	2
環境洗隊フォーリンジャー	香川県立観音寺第一高等学校	4	2
チキン	京都橘高等学校	1	3
フライハイ	徳島県立城東高等学校	2	2
にがりーず	東京工業大学附属科学技術高等学校	3	2
HGC	広島県立広島高等学校	0	6
堀川五坊	京都市立堀川高等学校	2	3



## 本大会タイムテーブル

### ○ 1 日目

12:00 ~ 12:50	開会式
13:10 ~ 18:30	本大会 WS
18:30 ~ 19:30	懇親会

### ○ 2 日目

9:00 ~ 9:45	最終発表準備
10:00 ~ 12:30	最終発表
12:30 ~ 13:30	昼休憩
13:30 ~ 14:30	結果発表・閉会式

## 本大会 WS の概要

### 1. 身の回りの川の特徴について考える

各自が事前課題で考えてきた「身の回りにある川の特徴」をチーム内で共有し、小さい要素に分けて抽出する。

### 2. 「ここにしかない」と思える要素を考える

1. で抽出した要素について他のチームと比較し、自分たちの近くの川にしかないと考えられる要素をチェックしておく。

### 3. 好みとその理由について考える

各自の好みについて書き出してもらい、チームの中で紹介しあってもらう。そののち、「なぜそれを繰り返しやりたいと思うのか」「なぜそれが好きなのか」の理由を要素に分けて抽出する。

### 4. 地域住民が参加したいと思えるイベントのアイデアを考える。

2. で考えた身の回りの川にしかない要素を活かしつつ、3. の好きになる要素を備えた川のイベントについて各自一人で行くつかアイデアを考えてみる。

### 5. アイデアの共有・評価・選択・改善

各自が考えたアイデアを共有し、そのアイデアについて実現可能性や新規性、影響力などの観点から評価する。チームメンバーや先生達からのフィードバックをもとにアイデアを1つに絞り、そのアイデアを再度フィードバックによって改善していく。

## アイデアの評価基準

### ○新規性

既存の事例にとらわれない、斬新なアイデアであるか

### ○地域への影響力

実際にイベントを実行することで地域の人々がより地域の川に親しみをもって接するようなアイデアであるかどうか

### ○イベントとしての魅力

地域住民の共感を誘い、持続できるアイデアであるかどうか

### ○実現可能性

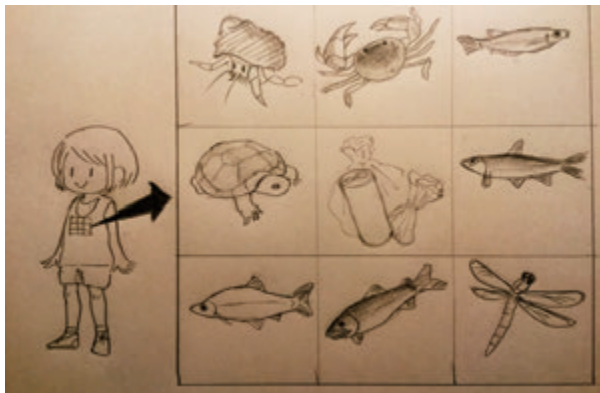
現在あるいは将来、アイデアを実装する際に生じる障壁が存在するか、存在する場合はその障壁を適切に把握しているか

# 大会結果

## 優勝

環境洗隊フォーリンジャー（香川県立観音寺第一高等学校）  
「川あそビンゴ」

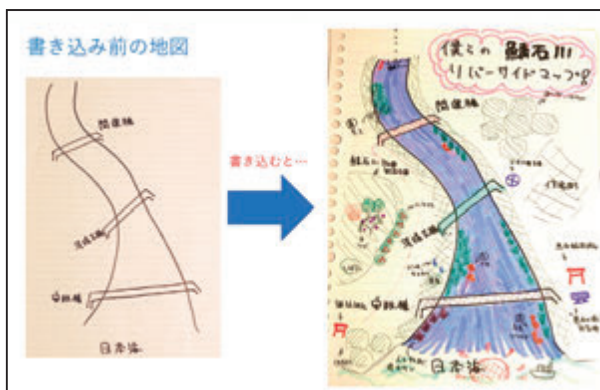
高校やまちの目の前を流れる生命豊かな川に注目し、川に生息する生物を収集して景品がもらえるビンゴ、というイベントを考案しました。すべて見つけるという大きなゴールの前にビンゴするという小さな目標があり、子供たちに目的意識をもって川に触れてもらえるような工夫がなされていました。



## 準優勝

Teenager（新潟県立柏崎翔洋中等教育学校）  
「僕らのリバーサイドマップ」

事前学習によって地元の鯖石川について調べたところ、新たな魅力をたくさん発見したという体験をもとに、高校生が主導して小学生達とその保護者とともに1本の川を対象として絵地図をつくる、というイベントを考案しました。



## 審査員特別賞

Fishbones (愛光高等学校)

「石手川今昔物語」

愛媛県石手川の洪水に悩まされてきた歴史や豊かな生態系に注目し、地域の住民を招待して高校生主体で旧河道を巡ったり川遊びの体験をしたりするツアーを考案しました。地元の郷土料理も合わせることで地域と川のつながりを体感できるツアーとなっていました。

堀川五坊 (京都市立堀川高等学校)

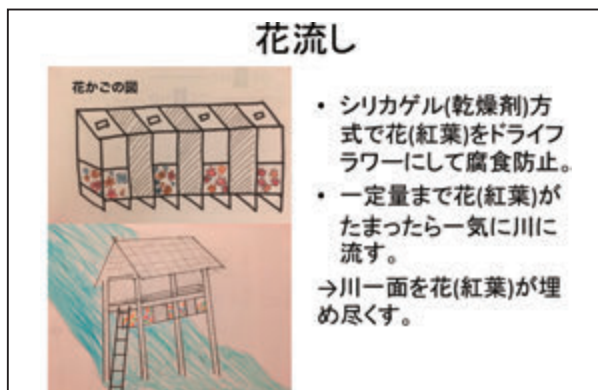
「鴨コレ ～鴨川コレクション～」

鴨川という歴史ある街を流れる川と京都という土地柄に注目し、夜の鴨川を舞台に和服のファッションショーを行う、というイベントを考案しました。ファッションショーにあたっては地元の専門学校生によってメイクや衣装のデザインをしてもらい、モデルも高校生が務めるという学生中心のものとします。

HGC (広島県立広島高等学校)

「花流し」ほか

沼田川の清流と四季折々の魅力に注目し、地域住民と学生が主導となり、春・秋に花・紅葉を川に流す「花流し」を提案。併せて季節により楽しみ方の変わる「花ポート」や川辺のくつろぎ空間「寝そべリア」に加え、ピクニックエリアの整備によって、地域の人々が川に自然と親しめるようなアイデアを創り出しました。



# 大会広報

## 大会ホームページ

イノチャンホームページにはイノチャンはどういう大会であるか、大会のコンセプトや社会イノベーションの事例、大会にあたってどのように取り組むべきか、今大会における審査員の方のプロフィール、協賛していただいた企業様、過去大会についてなどを掲載しております。

(<http://innochan.x0.com/>)



# 審査員

## 審査員紹介



### 藤井政人

九州地方整備局河川部長。1966年岐阜県生まれ。1991年東京大学工学部を卒業後、建設省（現・国土交通省）に入省。関東地整企画課長、大臣官房技術調査課課長補佐、近畿地整大和川河川事務所長・企画調整感、水管理・国土保全局河川環境保全調整官、関東地整京浜河川事務所長、総合政策局事業総括調整官、環境省環境再生・資源循環局参事官（総括）などを経て、2019年4月より現職。2014年より、ミズベリング・プロジェクト・アドバイザーとして、ミズベリング東京会議・大阪会議・広島会議・MIFなど多数企画・出演。2015年には「水辺で乾杯」を企画。J-WAVV「Gratitude」・「PRIMEFACTOR」では、東京の水辺を演出する「ミズベリスト」として紹介。



### 三橋さゆり

国土交通省利根川上流河川事務所長。東京工業大学土木工学科卒業後、カリフォルニア大学デービス校を経て1991年東京工業大学大学院修了。建設省（当時）に入省後、主として河川の仕事に携わる。2007年に「ダムカード」の企画・発行に携わったことを契機に、ダムの幅広い広報のための企画、官民連携による商品開発などに取り組む。また様々な講座の「川の案内人」として「川と地形の見方」の伝導によるインフラツーリズムを実践している。



### 山田辰美

常葉大学名誉教授。河川などの水辺や里地・里山の野生生物の保全が専門。数多くの場所でピオトープ（生物生息空間）作りを手がけ、「ピオトープ」の概念の普及や、静岡県希少野生動植物保護条例の策定などに尽力した。カワバタモロコやイシガメなどの水生生物の保全のほか、富士山のシカや遠州灘海岸の昆虫の問題等にも取り組んでいる。野遊びの達人と呼ばれ、地域密着型環境教育「里の楽校」の活動を通して、道草など子どもの自然体験の意義を発信している。自然をテーマにしたラジオ番組のパーソナリティを12年間続けた。



### 堀井秀之

i.school エグゼクティブ・ディレクター。JSIC（日本社会イノベーションセンター）代表理事。元東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻教授。1980年東京大学工学部土木工学科卒業、ノースウェスタン大学大学院修士課程・博士課程修了。専門は社会技術論、国際プロジェクト論、イノベーション教育論。2009年i.schoolを設立、エグゼクティブ・ディレクターとして、i.school運営を統括する。2016年JSICを設立、代表理事に就任。著書に「問題解決のための『社会技術』」（中公新書）、「社会技術論：問題解決のデザイン」（東京大学出版会）など



## 小松崎俊作

東京大学社会基盤学科准教授。i.school アシスタント・ディレクター。東京大学工学部土木工学科を卒業後、ラトガース・ニュージャージー州立大学に約4年間留学し、政策科学・公共政策学を学んだ。研究面では分野横断的なバックグラウンドを活かして、特に社会イノベーション創出に貢献する公共政策の形成過程をテーマとしている。問題解決策(政策)の設計、実装という課題を意識して2013年度からi.schoolでの活動に関与し、社会基盤学科の学生はもちろん、海外や高校生も含めた幅広い対象にイノベーション教育を実践している。

## 審査員業務について

### ○事前準備

- ・当大会のホームページに掲載する写真および紹介文の送付

当大会のホームページで公開する、審査員の方の写真と紹介文をお送りいただきました。

- ・当日資料の通読

本大会の開催に先立ち、審査員の方に当日資料をお送りし、本大会当日の流れなどについてご確認いただきました。

### ○本大会当日

- ・審査員の皆様によるご講演

開会式では山田様から瀬戸川を舞台にした地域住民の川遊び意識についての講演を、1日目の懇親会では三橋様からダムカードの作成とその後につわるお話をいただきました。2日目の閉会式の際には藤井様からミズベリングプロジェクトとその実践例をご紹介いただきました。

- ・高校生のワークショップへの助言（1日目）

1日目のワークショップの際に、審査員の方々には各チームを回っていただき、ワークショップで高校生たちが考えたアイデアについてブラッシュアップのためのフィードバックをしていただきました。

- ・懇親会（1日目・希望者のみ）

高校生とイノチャンの運営をしている大学生との懇親会に、審査員の皆様にもご参加いただき、交流を深めていただきました。

- ・アイデアの評価およびコメントの記入（2日目）

審査員の方には各チームの最終発表を聞きながら、各チームのアイデアを評価いただきました。また、高校生に向けてのコメントを記入いただきました。

- ・講評（2日目）

最終結果発表（5チーム）の際に各審査員の方々に1人1チームずつ講評をいただきました。

- ・写真撮影および高校生からの質疑応答（2日目）

閉会后、審査員の方や高校生含め、当大会に関わった全員で記念撮影を行いました。

# 決算

## 収入

摘要	金額
前期繰越金	592,639
協賛金収入	1,600,000
計	2,192,639

(単位：円)

## 支出

摘要	金額
賃借料	160,000
会議費	90,631
事務用品費	172,555
支払手数料	76,220
通信費	33,789
広告宣伝費	392,188
旅費交通費	156,749
保険料	38,095
接待交際費	16,500
計	1,136,727

(単位：円)

収支差額 1,055,912 円につきましては、来年度の大会運営費に繰り越させていただきます。

# 大会参加者の感想

## 参加した高校生の感想

本大会終了後に参加して下さった高校生の皆様にアンケート調査を通して、本大会へのご感想・ご意見を多数いただきましたので一部抜粋してご報告いたします。

### ・イノベーションワークショップについて

高校生たちにとっては問題解決の視点からは考えたことがあっても新たなアイデアを創出するという経験はあまりなかったようで、「アイデアという範囲の広いものから1つを選ぶのが大変だった」「時間が足りないと感じた」「考えたことを具体化するのが難しかった」といったように、難しい、大変という意見をたくさんいただきました。

その一方で、「(ワークショップ、事前学習を通じて)改めて地域の河川について考えられた」「難しい所も含めて面白かった」と、地域の河川について調べ考えるうちに新たな発見が沢山あったようです。

### ・大会について

大会を通じて高校生同士や高校生と東大生の交流が随所で見られました。全く違う地域の初めて出会う高校生や、東大生との会話は本人たちにとっても良い刺激になったようで、「もっと交流の場が欲しい」「他校の生徒と学べる場がもっと欲しい」といった感想をいただきました。限られたスケジュールの中ではありますが、次回以降より交流を深められるよう取り組んで参ります。





## 主催した大学生の感想

主催した大学生の本大会を終えての感想の一部をご報告いたします。

・僕は第2回全国高校生社会イノベーション選手権において、代表を務めさせていただきました。大会の開催に向けて準備すべきことは数多くありましたが、必ずしも準備の全てが円滑に進められたわけではなく、運営には数多くの困難を伴いました。しかし、困難を乗り越える過程で、自分自身の得意なことや苦手なことを知ることができ、良い成長の機会となりました。大会の運営には多大なる労力を要しましたが、大会を完遂できたことによる経験や自信、成長はそれ以上のものであり、大会を終えたいま、あらためて代表としてこのイノチャンに取り組むことができ良かったと感じています。加えて、これだけのことを成し遂げることができたのは、実行委員やこの大会の開催にあたり様々なサポートをしていただいた皆様のご協力あってこそです。ここに感謝の意を申し上げます。

・この大会は自分自身にとってもいい学びになりました。これまで経験してきた授業や課外活動でも、アイデア発想に取り組む機会は複数回ありましたが、その効果的な手法を手を動かしながら学ぶ機会に出会ったことはありませんでした。しかし大会の運営に当たっては、ワークショップの設計や体験にも参加することができたので、そうした手法に関する多くの気づきに出会うことができました。ここで身につけた論理的な思考力や分析力は、今後の学習や課外活動に活かしていきたいです。まだ将来について考える時間を多く持っている高校生のうちに、こうした体験を得ることができるとしたら、それこそが「イノベーション教育」の価値なのだと思います。

・本大会に楽しそうに取り組む高校生たちを見て、ふと自分の高校時代の生活を振り返った時に、自分が高校生の時はこうした大会に参加しようと考えたこともなかったことに気づき、高校生たちの積極性や、休日にも拘らずそれを快くサポートできる先生方の熱心さに驚かされ、少し羨ましくも思いました。

・アイデア発想における知識が及ぼす影響は興味深いと思いました。今回のテーマは「水圏との関わり」が中心にありましたが、我々社会基盤学科の学生にとって水圏は、多くの学生が一定の専門知識を持つ分野です。その結果学生チームで取り組んだワークショップのデモでは、実現可能性に富む反面、独創性に欠ける案が多かったように思います。他方、基本的に専門知識を持たない高校生たちの議論から生まれた案は、独創性に富んだ案が多かったように思います。この大会に限らず実際の社会でも、「知識」は多くのアイデアを実現するために活用されるべきであり、その創造を妨げるというのは皮肉なことで、イノベーション教育の普及はその両立を可能にする手立てなのではないかと思いました。

・今回で第2回大会となるイノチャンですが、一次審査では全国各地から非常に多くの応募があり、イノベーション教育や環境に対する全国的な関心の強さを感じました。

・本大会が審査員の皆様や引率の先生方にとっても交流の場となっていたのは印象的でした。近年、イノベーション教育に限らず「探求学習」や「SSH」といった新しい教育の概念が高校教育にも浸透しつつある一方で、それに制度や経験の蓄積が追いついていない部分があるのも事実で、その中でどのように教育を刷新していけるのかに興味を持つ方は少なくないのではないのでしょうか。その点で、第2回大会を終えたイノチャンが、今後は社会基盤の枠組みを超えたものになって行く可能性にも期待したいと思います。

# 来年の開催に向けて

## イノチャンの成果

イノチャンを通して高校生たちは自分たちで様々なアイデアを生み出しました。考えたアイデアが既存のものである、実現可能性が低いなどなかなかいいアイデアが生まれないという困難に何度もぶつかったことでしょう。イベントとして本当に楽しく地域の方々に受け入れてもらえるのか、川に対して継続的に親しみを持ってもらえるようになるのかといったような、制約の中でのアイデアの創出の難しさを体感していたのではと思います。しかし同時に高校生は楽しそうに議論および意見交換をして、アイデア創出の楽しさと奥深さを感じていました。身の回りの川についてたくさん調べてもらったことで、地域の川についての新たな発見をした高校生もいました。さらに、他の高校生や先生方との交流、審査員の方々の講演や最終発表を通して様々な視点・発想に触れる中で考える引き出しを増やすことができたと考えています。

## 来年度の開催に向けて

始めは緊張している高校生も見受けられましたが、好きなもの・ことについて語るセクションなどをきっかけに大きく議論が盛り上がり、最終的には独創的なアイデアの創出に成功し、私たち自身も驚くようなアイデアが数多くありました。また長時間の議論によって急成長する高校生を身近で見て、イノベーション教育が高校生にとって非常に重要であるとあらためて感じさせられました。今大会を実施することができたのは、協賛していただきました企業の皆様、そして参加していただいた高校、ご協力いただいた大学内外様々な関係者の方々のおかげです。このイノチャンという大会を来年度以降も続けていければと思いますので、今後とも全国高校生社会イノベーション選手権をよろしくお願いたします。

## ご協賛いただいた企業の皆様

ジェットエイト株式会社 様

株式会社大林組 様

清水建設株式会社 様

鹿島建設株式会社 様

大成建設株式会社 様

株式会社建設技術研究所 様

八千代エンジニアリング株式会社 様

日本工営株式会社 様

株式会社パスコ 様



## 企画協力

### ○東京大学工学部社会基盤学科

池内幸司 教授 沖大幹 教授 小澤一雅 教授 中井祐 教授

川崎昭如 特任教授 知花武佳 准教授 渡邊健治 准教授

### ○東京大学広報戦略本部

マッカイ・ユアン 特任助教

### ○名古屋大学

中村晋一郎 准教授





編集・発行

全国高校生

社会イノベーション選手権実行委員会